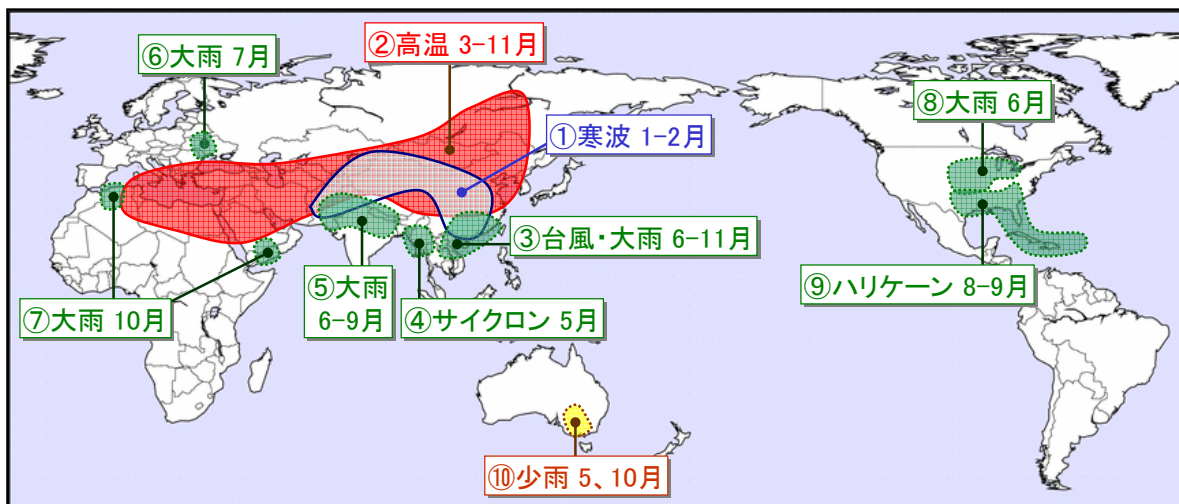


2008 年（平成 20 年）の世界の天候（速報） ～主な異常気象と気象災害～

- アジア～アフリカ北部で異常高温が多発（3～11 月）。
- 中国の寒波（1～2 月）、ミャンマーのサイクロン（5 月）などによる気象災害が発生。

2008 年に発生した主な異常気象・気象災害は以下のとおりです。



世界の主な異常気象・気象災害（2008 年（平成 20 年）1 月～11 月）

異常気象や気象災害のうち、規模や被害が比較的大きかったものについて、おおよその地域・時期を示した。図中の番号は概況文の番号と対応している。

- ① 中国～中央アジアの寒波（1～2 月） 中国から中央アジアでは、シベリアからの寒気が南下し、異常低温が続きました。中国では低温や大雪により 120 人以上、アフガニスタンでは寒波の影響により 800 人以上が死亡したと伝えられました。
- ② シベリア南部～アフリカ北部の高温（3～11 月） シベリア南部からアフリカ北部では、3 月以降、たびたび異常高温となりました。モンゴルのウランバートルでは 3 月の月平均気温 -2.4°C （平年差 $+6.6^{\circ}\text{C}$ ）でした。
- ③ 中国南部から東南アジアの大雨・台風（6～11 月） 中国南部では 6 月に梅雨前線の大雨により合わせて 120 人以上が死亡したほか、台風が中国南東部からインドシナ半島方面に接近・上陸することが多く、6 月の台風第 6 号によりフィリピンで 640 人以上が死亡したことなどが伝えられました。

- ④ **ミャンマーのサイクロン（5月）** ミャンマーではサイクロン「ナルギス」が上陸し、洪水や高潮などにより 13 万人以上が死亡したと伝えられました。
- ⑤ **インド北部周辺の大雨（6～9 月）** 夏のモンスーンに伴う大雨によりインドやパキスタン、ネパールで被害がたびたび発生し、インドでは 6～9 月に北部を中心に合わせて 2700 人以上が死亡したと伝えられました。
- ⑥ **ウクライナの大雨（7 月）** ヨーロッパでは低気圧や前線の影響を受けることが多く、たびたび異常多雨となりました。ウクライナでは 7 月に洪水により 30 人以上が死亡したと伝えられました。
- ⑦ **アルジェリアおよびイエメンの大雨（10 月）** アルジェリアでは温帯低気圧による大雨で 80 人以上、一方、イエメンでは熱帯低気圧による大雨で 70 人以上が死亡したと伝えられました。
- ⑧ **米国中西部の大雨（6 月）** 南からの暖湿流により前線活動が活発となり、大雨により 20 人以上が死亡し、ミシシッピ川流域で大規模な洪水が発生したと伝えられました。
- ⑨ **米国南部～カリブ海諸国のハリケーン（8～9 月）** 米国海洋大気庁によると、大西洋のハリケーンは平年より多く発生しました。8～9 月にはハリケーン「グスタフ」や「アイク」などにより米国南部で合わせて 70 人以上、ハイチで合わせて 350 人以上の死者が伝えられました。
- ⑩ **オーストラリア南東部の少雨（5 月、10 月）** オーストラリア南東部ではラニーニャ現象等の影響で 2 月は多雨となりましたが、その後は少雨傾向で異常少雨となる月もありました。一部ではここ数年続いている干ばつが解消していないことが伝えられました。

- ※ 異常気象：ここでは、月平均気温や月降水量において、その地点として 30 年に 1 回程度以下の稀な値のことを指します。
- ※ 災害の被害情報：国連の災害データベース（EM-DAT）や国連の報道機関（IRIN）、各国の政府機関の発表等に基づいています。
- ※ 気象庁ホームページでは週ごとや月ごとに世界の天候の資料を更新しています。
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/monitor/>

[この件に関する連絡先：気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課 03-3212-8341 内線 3157]